

## 飯舘村を扱った作品がカンヌライオンズにノミネートされる

世界にある数々の広告・コミュニケーション関連のアワードやフェスティバルの中でも、エントリー数・来場者数ともに最大規模を誇る「カンヌライオンズ 国際クリエイティビティ・フェスティバル (Cannes Lions International Festival of Creativity)」。この The Innovation Lions 部門に飯舘村を扱った作品が受賞候補としてノミネートされています。

Made in Fukushima. A Sustainable Decontamination Method for Farming by Meter Group and Serviceplan, Germany

<https://www.prweek.com/article/1586628/cannes-lions-reveals-first-batch-shortlisted-award-entries>

飯舘村は2011年6月に東京大学大学院農学生命科学研究科の溝口勝教授が調査に入った原発被災地で、これまでの8年間、同研究科の研究者やNPO法人のメンバーが地元農家と一緒に農家自身でできる除染や農業再生に取り組んできました。2018年3月5日には飯舘村と当研究科が農畜産復興のための連携協定を締結しました。今回、作品をつくったMETER Groupは土壌・環境センサーの会社で、溝口教授の友人であるコリン・キャンベル副社長が来日のたびに飯舘村を訪問し、農業再生のために自社のセンサーを提供してくれていました。今回の作品はMETER Groupとドイツの広告代理店Serviceplanが飯舘村の稲わら20kgから紙を作り、その紙で「MADE IN FUKUSHIMA」という本を作り、その本を宣伝する2分間の動画です。この動画には溝口勝東京大学教授と菅野啓一飯舘村農業委員会会長が登場します。

カンヌライオンズの受賞候補に残ったことは、来年の東京オリンピックに向けて「福島復興」を世界にPRするまたとないチャンスといえます。

本の内容：

### MADE IN FUKUSHIMA

This book takes the reader on a journey to the village of Iitate in Japan, 40 km away from the Fukushima Daiichi power plant where, on March 11th, 2011, one of the biggest disasters in recent history occurred.

It tells the story of a region that has been rooted in agriculture for centuries, was contaminated by radiation brought by the wind, and is now being rebuilt with the support of environmental scientists.

The book intends to let readers form their own view by providing a wide range of sources: documentary photography and interviews with farmers and scientists, background information on various aspects, but most importantly data and its visualization.

なお、来週 6 月 17-21 日にフランスのカンヌでフェスティバルが開催され、6 月 20 日に受賞作品が発表される予定です。日本からは溝口教授が飯舘村で育てた酒米から作った純米酒「不死鳥の如く」を持参して参加する予定です。

<http://www.iai.ga.a.u-tokyo.ac.jp/mizo/edrp/fukushima/saisei/like%20a%20phoenix.pdf>

文責：溝口勝  
東京大学大学院農学生命科学研究科・教授  
認定 NPO 法人ふくしま再生の会・副理事長  
03-5841-1606